

高プロラクチン血症患者においてマクロプロラクチン精査を実施した3症例

©中島 和希¹⁾、尾山 実央¹⁾、下藏 尚弥¹⁾、眞城 里奈¹⁾、脇本 拓¹⁾、鶴谷 香里¹⁾、上霜 剛¹⁾
兵庫県立尼崎総合医療センター¹⁾

【はじめに】マクロプロラクチンはプロラクチン(以下 PRL)と IgG が結合した免疫複合体である。マクロ PRL が存在すると高 PRL 血症を呈するが乳汁分泌や月経異常等の臨床症状を呈することは少なく治療の必要性はない。そのため高 PRL 血症を認めた際には真の高 PRL 血症とマクロ PRL 血症の鑑別が必要となる。当院では依頼医の指示があった場合マクロ PRL 精査目的で PEG 処理を実施している。そこで今回我々はマクロ PRL 精査目的で PEG 処理を実施した3例を経験したため報告する。

【症例と検査所見】

<症例 1> 30代女性。主訴：なし。現病歴：高 PRL 血症。妊娠、授乳無し。10代から高 PRL 血症を認めており持続高値のため紹介受診。検査所見 PRL:188.7ng/mL

<症例 2> 30代女性。主訴：両側乳汁分泌、月経不順。現病歴：甲状腺乳頭がん術後、高 PRL 血症。妊娠、出産なし。甲状腺乳頭がん術後、近医にてフォロー中に両側乳汁分泌、高 PRL 血症を認め紹介受診。検査所見 PRL:406.3ng/mL

<症例 3> 60代女性。主訴：倦怠感。膀胱癌に対しキイトル

ーダ投与開始約1週間後から徐々にめまい、吐気、食欲低下、しびれ感増強を認め緊急入院。免疫関連有害事象精査で高 PRL 血症を認めた。検査所見 PRL:227.8ng/mL

【追加検査(PEG 処理)と考察】症例 1 は PEG 処理の結果回収率 11.6%と低くマクロ PRL 血症と診断。症例 2 は PEG 処理の結果回収率 70.3%であった。その後脳 MRI 検査にて PRL 産生下垂体腺腫と診断。症例 3 は PEG 処理の結果回収率 82.6%であった。その後脳 MRI 検査にて下垂体に異常病変を認めず経過観察中である。症例 1,2 は PEG 処理による結果と病態に相違がなく PEG 処理の有用性が確認できた。症例 3 は高プロラクチン血症を示唆する結果であったが原因の特定は困難であった。

【結語】マクロ PRL 精査目的で実施する PEG 処理は簡易に実施でき、高 PRL 血症の原因鑑別の有用性が示唆された。しかし PRL 高値となる原因の同定が出来ない症例が存在し新たな薬剤による偽高値の可能性も踏まえ今後の症例の蓄積が必要である。

連絡先 06-6480-7000(内線 2014)